

男は口を固く引き結んで、簿記臺の上の帳面をヒツコメたり、椅子の位置をなほしたりしながら、

『私は此處に雇はれてゐる事務員ですから、主人は今村の學校に行つて留守です』

『嘘を吐け、おい便所を教えろ』

令夫人が子供を乳房に啣へさせて、ネタマシゲに見てゐた。

それでも紙包みを出してくれたので開けて見ると、五拾錢札が四枚しか這入つてゐない。間違つてやしないかと思つたけれど、叔父さんみたいな大人が二三人やつて來たりしたので、あきらめて仆してゐた自轉車を起して乗つた。

眠むくなつたやうだ。

加周までは二里ある。

後がへりした。

小學生が前を走つて行く。

砂利石の凸凹した甚い道だ。